

言語コミュニケーションB①	講義	非常勤講師 深谷 秀樹	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の必修科目	科目ナンバリング	21200108

1. 授業のねらい・概要

日本語を使ったコミュニケーション能力の向上をめざす。後期のBでは、敬語表現と通信文を扱う。同じ内容を伝える場合でも、表現のしかたによって受け手の印象が大きく変わる。その表現方法のひとつに敬語がある。Bの前半は、基本的な敬語の用法を学ぶ。また後半は、実際に敬語を用いた表現の場として、メール・手紙などの通信文の書き方についての演習をおこなう。以上の内容により、状況に応じて適切な表現の使い分けができることをねらいとする。

2. 授業の進め方

冒頭に漢字の問題演習（漢字検定3級相当の読み書き）をおこなう。続いて、各回のテーマに基づいて授業を進めていく。問題や課題に取り組む時間を多く設け、理解度を確認するため適宜指名して問題の解答や文章の音読をしてもらう。各回の授業内容は下記の授業計画によるが、学生の理解度や希望によって一部変更する場合もある。

3. 授業計画

1. オリエンテーション	9. 敬語表現の確認
2. 敬語の種類	10. 通信文について
3. 丁寧語の用法	11. メールの文章を書く
4. 尊敬語の用法—動詞にかかわるもの	12. 手紙（はがき）の文章を書く
5. 謙譲語の用法—動詞にかかわるもの	13. 手紙（封書）の文章を書く
6. 尊敬語の用法—名詞にかかわるもの	14. 表書き・返信の書き方
7. 謙譲語の用法—名詞にかかわるもの	15. まとめ
8. さまざまな敬語	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・日本語の書籍や新聞・雑誌等を読み、そこで使われている敬語表現を書き出して意味や使い方を調べる（60分）。
- ・授業で配布したプリントの内容を読み返し、わからない部分があれば確認する（60分）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際に出題意図や解答のポイントを解説する。

6. 授業における学修の到達目標

- ・漢字検定3級相当の読み書きができる。
- ・状況に応じた日本語の表現方法を理解し、日々の言語活動で使うことができる。
- ・日本語における敬語の基本的用法を身につける。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験と漢字テストの点数（90％）に提出物と授業への参加状況（10％）を加味して評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは使用せず、プリントを配布する。参考文献は必要に応じて授業の中で紹介する。

9. 受講上の留意事項

- ・毎時間の学習の積み重ねを重視するので、欠席・遅刻をせず、真剣かつ積極的に取り組むこと。
- ・日本語の辞典を持参すること。電子辞書でもよい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。